

第3回委員会

日時：2007年9月15日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：中井委員長，木下，平田，古川，渡邊

欠席：稲濱，横山

<事務局>磯部

[配付資料]

1. 動向2007年IFLA大会（南アフリカ・ダーバン） 書誌データ関連のセッションに参加して（3ページ-A4，中井委員長）
2. DC-2007シンガポール参加メモ（2ページ-A4，中井委員長）
3. RDA6章（June 2006からの変更点）（8ページ-A4，稲濱委員）
4. RDA draft Chapter7（Rev.2007）について（4ページ-A4，平田委員）
5. 第6-7章第2次案のbackground 第1次案からの変更点（要約）（2ページ-A4，古川委員）
6. RDA Scope and Structure改訂版（2007.6.14）の要約（4ページ-A4，古川委員）
7. RDA to FRBR mapping（2007.6.14）について（1ページ-A4，渡邊委員）
8. RDA Element analysis（2007.6.14）について（3ページ-A4，渡邊委員）
9. 第31期目録委員会記録No.2（2ページ-A4，事務局）
10. 第31期目録委員会名簿（1ページ-A4，事務局）

[報告・連絡事項]

1. 委員の就任について
木下直委員（東京大学）の就任が報告され本日より参加された。
2. IFLA大会及びDC-2007について
中井委員長から資料1、2に基づき、IFLA大会及びDC-2007についての報告があり、以下のような意見があった。
 - ・ ISBD統合版についてウェブ上に掲載されるか注意してみた方が良い。

[検討事項]

1. RDA第6章及び第7章について
欠席の稲濱委員に代わり古川委員から資料3、平田委員から資料4、古川委員から資料5に基づき、RDA第6章及び第7章について説明があり、以下のような意見があった。
 - ・ conventionという語は、方式、形式、書式という意味を表しているようであり、6.1.2では、従来のアクセスポイントに加えて記述中の表示をもその範囲に含めている。
 - ・ primary access pointの言葉はなくなったが、その概念はcreatorなどの言葉で実質的に残っていると思われる。
 - ・ 第1次案との比較を行うなら、例示がどこからどこへ移ったかを見ると良く判るであ

ろう。

- ・ 関連については、Tillettの挙げた関連を基にしている。
- ・ 内容細目が第7章に吸収されたということは、resourceは独立した記述を作るものだけではないことを意味するようである。
- ・ relational/object-oriented database structureはidentifierでリンクを形成したDB、linked bibliographic and authority recordsは伝統的な目録に当たるのであろう。
- ・ 編者の扱いが解りづらい。

2. RDA Scope and Structureについて

古川委員から資料6に基づき、RDA Scope and Structureについての説明があり、以下のような意見があった。

- ・ DCMIのAbstract Modelの改訂を反映した改訂であり、内容的には前の版と比べて基本的な変更はない。

3. RDA to FRBR mappingとRDA Element analysisについて

渡邊委員から資料7と資料8に基づき、RDA to FRBR mappingとRDA Element analysisについての説明があり、以下のような意見があった。

- ・ 機械で解釈させるために必要なものなのであろう。
- ・ 規則の電子版ができた際には、条項がこのようなモデルに基づいて取り出しができるようになるのかもしれない。
- ・ 本来分けられないものを無理矢理分けている感じもする。

次回の委員会の予定

10月20日（土）

以上